

第40回「ハートミーティング」意見交換の内容について

環境職研修会

★参加メンバーからの主な声

- 環境職研修会では、外部講師や先輩職員の講演を内容とする全体研修会の開催をはじめ、政策研究を主とした分科会の開催や、他自治体の環境行政職との交流会を実施しており、環境行政に関する専門的な行政遂行能力の向上を図っている。
- 環境職には、積極的かつ的確に発言でき、多様な意見を集約し、進行管理できる総合職としての能力が求められていることを痛感した。
- 環境政策の究極は、ライフスタイルの転換であるとお聞きし、様々な分野の知識や政策立案能力を身につけ、専門職かつ総合職として活躍できるよう、日々自己研鑽に励んでいきたいと思った。
- 行政の文書を分かりやすく伝える手法について、市長から「マンガは、分かりやすく表現する「絵」と、重要なメッセージである「文字」を組み合わせたもので、説明資料としては最適なものであり、これを意識したらどうか。」とアドバイスをいただき、非常に参考になった。

★市長からのコメント

- 環境への取組は、短期的な利益に結びつきにくいですが、長期的に見れば市民及び事業者にとってメリットになることを示していくことが重要である。その上で、「環境に配慮した取組」を京都市の政策上の価値として、打ち出していく必要がある。
- かつて、健康に影響を与える恐れがある合成洗剤を給食から排除した。石鹼による洗浄はすすぎの工程で非常に手間がかかる等と、現場からは反対されたが、現場と一緒に物事を考えることにより実現することができた。現場職員の声にどれだけ耳を傾けられるかが重要である。
- ネイティブアメリカンは、7代先の子孫に与える影響を考え、行動していたという。そのような視点を持ちながら、かつ効率性を忘れることなく、政策立案に関わってほしい。
- 環境職研修会については、同一職種での研修ということもあり、考え方があまりすぎるというデメリットもある。今後は、環境職に限らず他の職種も交えて、勉強会などを行ったらどうか。皆さんが自己研鑽を進められ、もう少し経験を積まれた頃に、再度、ハートミーティングを行いたい。